

# Newsletter

 **日本教育情報学会**  
JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

No. 66 1996. 9. 5

〒141 東京都品川区大崎 5-6-2 産能大学内  
事務局：  
日本教育情報学会 運営本部事務局 TEL 03-5487-8864 FAX 03-5487-8768

## 第 1 2 回 定 時 総 会 報 告

8月8日(木) 13:00より国立オリンピック記念青少年総合センター国際会議室において、日本教育情報学会第12回定時総会が開催されました。

148名(委任状を含む)の会員の出席があり、提案されました2議案は、原案通り承認されましたことをご報告いたします。

(議案内容はNEWS LETTER No.65をご参照ください)

### 事務局移転のお知らせ

都合により、運営本部事務局が9月17日から移転いたします。お手数をおかけいたしますが、住所録等の訂正をお願いいたします。

●日本教育情報学会 運営本部事務局

〒158 東京都世田谷区等々力 6-39-15  
産能大学内  
TEL 03-3704-9168 FAX 03-3704-9456

## 日本教育情報学会第12回年会 開催報告

日本教育情報学会第12回年会は、8月8日（木）、9日（金）の両日、国際ネットワーク教育学会共催、財団法人専修学校教育振興会後援により、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）を会場に開催されました。猛暑の中でしたが、約250名の方が参加し、盛会のうちに進めることができました。

情報技術の第2世代の入口に立った今日、その現状を見すえ、将来の展望について意見交換しようとすることを目標にした本研究発表会では、課題研究を、今日的課題のネットワーク、マルチメディアの教育利用とし「初等中等教育」「大学教育」「専門学校教育」「公共機関等」のそれぞれの利用種別ごとに、各会場で研究発表を行った後、相互で意見交換するためのパネル討論を実施しました。「海外における情報教育」「マルチメディア教材データベースの構築」を含め、課題研究には37件の発表がありました。

一般研究も「情報活用能力・情報活用行動」「コンピュータ活用授業実践」「ネットワーク構築」など12テーマについて日頃の研究成果64件が発表されました。

「マルチメディアで教育は変わるか」をテーマとしたシンポジウムは、深谷哲楯山女学園大学教授と芦葉浪久十文字学園女子大学社会情報学部長がコーディネイタをされ、後藤忠彦岐阜大学教育学部長、坂元昂放送教育センター所長、太田次郎お茶の水女子大学長、廣瀬寛文部省生涯学習局学習情報課長が、それぞれの立場からマルチメディアの教育への影響、変化について論じられ意見交換をいただいた。満員のフロアからも意見をいただき、活気に満ちた意見交換を行った。

1日目終了後に開かれた懇親会には約80名の方が参加され、久しぶりに再会された方、初対面の方同士とも、ご自身の研究テーマやシンポジウムなどを話題に活発な話し合いの場として親睦が図られ、盛況に終えることができました。

年会の成功のため準備から当日運営まで、多くのお手数をおかけいたしました年会実行委員会の皆さまには、心からお礼申し上げます。

第13回年会は、1997年8月7日、8日に大阪市で開催する予定です。詳細が決まりしだいNews letter 等でお知らせいたします。

なお、第12回年会論文集は、3,500円（送料込）で頒布しています。ご希望の方は、お近くの郵便局から年会事務局宛、郵便振替でお申込みください。

郵便振替口座 番号 00120-2-670763

名義 日本教育情報学会第12回年会

# 学会誌原稿書式について

最近、学会誌の原稿書式についてのお問い合わせが増えておりますので、お知らせいたします。なお、投稿要領は学会誌巻末をご覧ください。

## 原稿書式

1990年11月改訂

### 1. 原稿用紙

- ① ワープロ等で作成する場合は、B5判の用紙を使用し、24字×19行にすること。  
原稿枚数4枚で学会誌刷りあがり1ページとなる（No.1, 2の用紙も含む）。
- 学会誌刷りあがりイメージでも結構です。（推奨）

### 2. 原稿枚数 約32枚（刷りあがり8ページ）

### 3. 記入方法

- ① 表題（1枚目 No.1）  
表題（副題も含めて35字以内）、英文表題、著者名（漢字およびローマ字）、所属機関、所在地、電話番号を記入する（所属機関は、役職・部署名等できるだけ詳しく記入）、連絡先は別記して、複数著者の場合は、連絡者に○印をつけること。
- ② 和文抄録、キーワード（2枚目 No.2） 和文抄録（400字以内）、キーワード（5語程度）
- ③ 本文（3枚目以降）  
はじめに、本論、まとめの順とする。本論は、簡潔かつ明瞭に記述すること。  
例えば ●大見出し 1. ×××× ●中見出し (i) ×××× ●小見出し ① ××××  
等を使用する。
- ④ 参考文献は、まとめて末尾に次の順で記述する。  
●雑誌の場合 著者、発行年、表題、雑誌名、巻数、ページ  
●単行本の場合 著者、書名、発行所、発行年  
\*文献に関連のある原稿の該当箇所には、右肩に参考文献番号を書く。
- ⑤ 図（写真）・表には、通し番号および名称をつける。  
●図（写真）の場合、図（写真）の下に 図1（写真1） ××××  
●表の場合、表の上に 表1 ××××  
\*写真は、白黒で印刷されるため、原則として白黒写真を用いること。  
図（写真）・表、は刷り上がり寸法の1～2倍大に書き、挿入箇所は原稿の該当箇所の右端の欄外にく（朱書）で示す。  
\*寸法●左右（最大）72<sup>mm</sup>（片段）、150<sup>mm</sup>（両段）●天地（最大）197<sup>mm</sup>（図説を含む）
- ⑥ 句読点はまる“。”、コンマ“,”、中点“.”、コロンの“:”、を用いそれぞれ1画（1字分）を用いる。

### 5. その他

- ① 原稿のコピーは、手元に残しておいて頂きたい。
- ② 編集委員会で査読後に、著者に照会して修正をお願いする場合もある。
- ③ 著者は、原稿校正時に別刷を注文することができる。
- ④ 参考文献は各分野によって引用の仕方が異なるので、原則として前述の記述方法とする。

### 6. 原稿送付先

〒352 埼玉県新座市菅沢 2-1-28 十文字学園女子大学 社会情報学部内  
日本教育情報学会 学会誌編集委員会事務局 TEL 048-489-1280

---

## 日本学術会議だより

---

### 21世紀をめざした学術会議のあり方について

～平成8年5月から6月の日本学術会議の動きから～

#### 第1回運営審議会附置将来計画委員会

日本学術会議の運営について全般的な観点から洗いなおし、今後のあり方について、検討を行う「運営審議会附置将来計画委員会」の第1回の委員会が、5月27日(月)、運営審議会に引き続いて行われました。

今回は、秋の総会に討議資料として提出すべく、今後の審議スケジュールと検討課題について審議を行いました。

その結果、討議すべき課題の多様さ、効率的な審議の必要性にかんがみ、8月の初旬に、2泊3日の合宿による会議を開催することとなりました。

#### 学術研究団体の登録申請について

日本学術会議の第17期会員の選出のための学術研究団体の登録申請は、5月31日(金)に締め切られ、前回の申請に比べて約150件多い約1,250件の申請がありました。

6月の下旬までに、事務局において、申請書類に不備がないかどうか点検を行い、不備のある学会については、同学会が修正を加えたもので、7月に開催された各部ごとの会員推薦管理会でそれぞれ、専門的な立場からの審査を行いました。

#### 特別委員会の動き

脳の科学とこころの問題特別委員会は、4月の日本学術会議総会において、「脳科学研究の推進について」(勧告)が採択されたことにより、脳科学の視点からの検討を終了し、4月19日の第14回委員会において、今後の検討の中心を「こころの問題」と位置付けると共に、大熊輝雄第7部会員から大山正第1部会員に委員長の交替を行いました。(その他、委員についても、若干の交替を行いました。)

学術の動向 1996.8 より